

令和7年度 幼児教育研修（年齢別担任研修1歳児・第2回）

「子どもの発達と保育者の関わりについて」

～興味しんしん 何でもやってみたい を大切に保育～

日時：令和7年7月23日（水）15：00～17：00

会場：足立区役所 庁舎ホール

講師：彰栄保育福祉専門学校 専任講師 山梨 有子 氏



## 第1回研修の振り返り

- 保育とは…
- 保育所保育の特性とは  
（保育所保育指針から）
- 環境を通して行う保育とは…

- 1歳児（乳児）の発達
- 子どもの育ちの見通し
- 子どもの姿に注目してみよう

### 受講生からの質問（第1回受講報告書より）

気持ちを切り替えられない子への対応はどうしたらいいでしょうか。



子ども達にどこまで寄り添っていいか悩む時があります。

自己調整できるようになるのは7歳くらいです。十分に自己発揮をするから抑制ができるようになります。

気持ちを受け止める言葉と共に、見通しをもった言葉掛けをして、子どもの中に蓄積されるようにしましょう。



子どもが自己主張している時、まずその気持ちを受け止めてみることも大切です。また、危険な行為などには、「～しないでね」ではなく、「～してね」とやってほしいと思う言い方にして伝えるといいですね。

例) 投げないでね→優しく渡してね

## 記録

### (1) 保育実践を振り返り、記録する

感動したこと、疑問に思ったこと、残念に思ったり、後悔したことも含めて  
保育実践を振り返り、記録する

「感動」は、記録することで定着  
「疑問」は、再考や検討を促す  
「残念に思ったこと」は、自己課題の明確化

記録は「保育中のわたし」を  
「保育後のわたし」が言語化する行為



客観的に見る目

### (2) 保育する自分自身を記録する

自らを見つめることが、子ども理解には欠かせない

自分の保育に  
悩む



自分の保育を  
振り返る



子ども自身の育ち  
を傍らで見守る



子どもの成長だけでなく、自己の成長を認識し、  
子ども理解だけでなく、自己理解も進んでいく

保育する自分自身を理解



子ども理解がはじまり、深まる

これらを通して自分自身の変化にも気づいていくようになる



# 話し合いを通して理解する

## 課題を共有する

記録をもとに話し合う、語り合う  
保育と共通項の中で別個の経験をし、異なる考え方や価値観を背景にもったもの同士が話し合うことで、新たな発見や、さらなる確認が生まれる



## 当事者性をもって話し合う

あるある!

私はこう思う!

自身の実践でないことも、他者の問題でありながら、自分の問題でもあるという感覚で話し合う  
話し合うことにより、様々な側面から光を当て考えて、みんなで磨き合い、豊かな実践をつくりあげていく

**保育とは共同作業の場**

## 問いを生む話し合い・開かれた話し合い

保育における話し合い→結論を急がないこともある  
保育は、たった一つの「解」がある行為ではない  
(もちろん方向性はある)

援助の方法のQ&Aばかりに目を向けすぎず、他者からの助言をもとに、自分なりに子どもを捉えて状況に応じた方法を考えていくことが大切

**だからこそ、保育を開き、語り合うことが大切になる**

# 映像をもとに理解する



## 水遊びをする一歳児の映像を見て話し合う

ワーク①「子どもの様子に吹き出しをつけてみよう!」

### 映像(動画・写真)の特徴

- ①再現性があり、何度も繰り返し見ることができる
- ②普段は見過ごしている、焦点化した事象の変化に気付くことができる
- ③それゆえに、本質的でない部分に見る側の焦点があてられることもある
- ④実際の画面の外側(写し出されていない箇所)を観る側が(想定し)補ってみている

このような特徴を理解した上で活用していく



あの子は何をしているのかな?



こうやったらどうなるのかな?

僕も同じようにやりたい!

冷たくてきもちいい  
感触が面白い!

もっと遊びたい!  
まだお部屋には入りたくない!

ワーク②「子どもの興味・関心をどう見つける?」

受講生より

映像を客観的に見ることで、子どもが何に興味、関心を持って、どんなことに面白さを感じて、じっくりに夢中になって遊んでいるのかがよくわかった。

子どもが見ているものを理解しようとする姿勢が大切だと感じた。

“子ども同士のやり取りのめばえ” “空間があると遊びがいききとする” “大人が介さなくても物が繋いでくれる” そのような視点で、自分のクラスの水浴びも見たい。

生活の流れを崩さないように配慮しつつも子どものまだ遊びたいという気持ちに寄り添うのは難しいなと毎日感じているが、動画に写っている先生のようにできる限り待つという形で寄り添えたらいいと思った。

## 研修生の報告書より



・保育を開き、語り合うことが大切という部分は、これまでの自分が重ねてきたことが正しかったのだと感じることができました。他者に見てもらいみんなで保育ができる環境づくりに向けて自分ができることを少しずつやってみようと思います。

・「子どもたちはこんな姿がある」やってみたけど難しかったな、先輩はどうしてこの遊びを設定したのだろうか、など感じたことをもっともっと発信していきたいと思いました。日々、何気なく行っていた意見交換が大事なのだと改めて感じました。自分を振り返ることの積み重ねが、子どもとの関わりに大きく影響していくことも学びました。

